

《北竜町ひまわりの里基本計画》

令和2年3月

北海道北竜町

目 次

第1章 はじめに	3
1 計画の背景と目的	3
2 北竜町ひまわりの里基本計画とは	3
第2章 北竜町の観光の現状	4
1 北竜町の観光入込客数	4
第3章 北竜町観光の課題	10
1 北竜町観光の課題	10
第4章 北竜町の目指すべき姿	14
1 北竜町を目指すべき姿	14
第5章 北竜町の観光推進体制	31
1 北竜町の観光推進体制	31
参 考 1 北竜町ひまわりの里基本計画策定に係る経過	32
2 策定委員の主な意見およびパブリックコメント	34

第1章 はじめに

1 計画の背景と目的

北竜町の一大交流拠点施設「ひまわりの里」は、1989年に誕生して以来30年が経過し、ひまわりの里は北竜町の誇りやシンボルとして定着しました。

その一方で、ひまわりを活用したまちづくりは全国各地で取り組まれるようになったため、本町はこれらの町との差別化を図り、ひまわりの北竜町の名を高めるために、新しい発想とデザインが求められています。

また、ひまわりの里の開園は、これまでは7月下旬から8月下旬の約1ヶ月間ですが、ひまわりの里全体のあり方を検討し、全国に誇れる新しい魅力を持ったひまわりの北竜町を目指すことで、年間を通じて観光客が北竜町に訪れるようにしたいと考えています。

そこで、計画的に整備を行い、北竜町の価値や知名度を高め、年間を通じて来訪者の増加や宿泊者の増加、ひまわりライスを始めとする北竜町産物の販売拡大、雇用の拡大、移住定住を図り、北竜町の未来の発展の可能性を創造するため、ひまわりの里基本計画を策定します。

2 北竜町ひまわりの里基本計画とは

(1) 計画の性格

本計画は、本町の観光振興の理念や将来的な方向性を示すとともに、町民、観光関連団体、行政の協働のもと、魅力的な観光まちづくりを推進するための指針とします。

(2) 計画の期間

本計画の期間は、2020年（令和2年度）から2029年（令和11年度）までの10年間とします。ただし、北竜町総合計画との整合性を図るものとします。

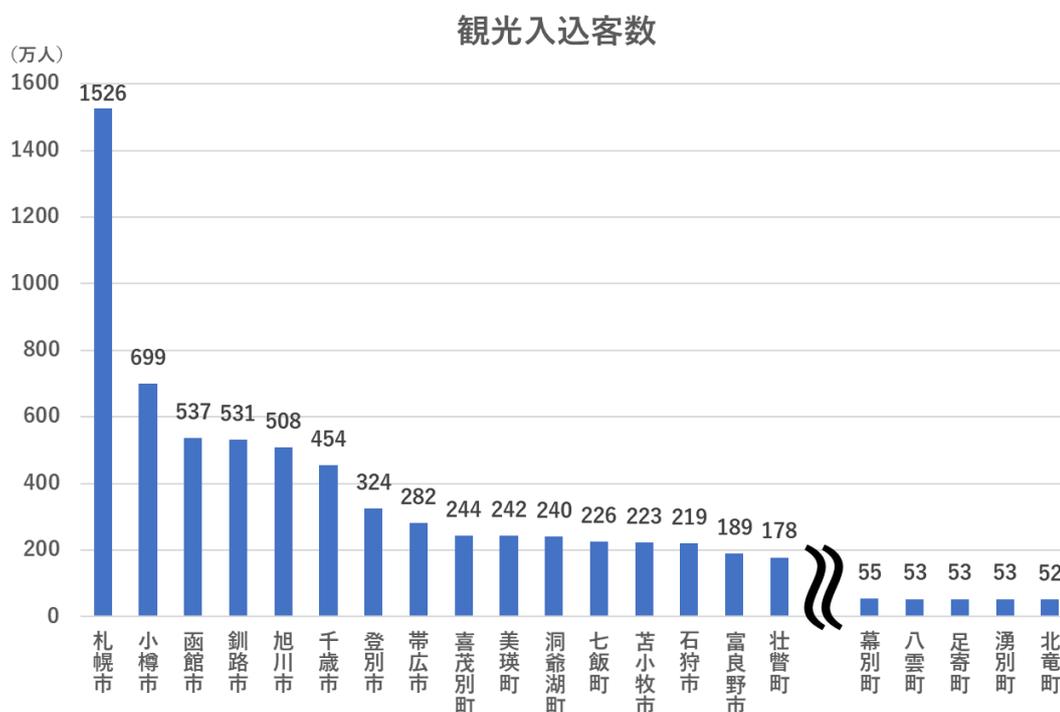
第2章 北竜町観光の現状

1 北竜町の観光入込客数

(1) 道内の状況

2019年度（令和元年度）の北海道の観光入込客数（延べ人数）は、1億4,388万人で、道内179市町村における観光入込客数（実数）では、北竜町は52万人で、67番目となっています。

圏域別の観光入込客数は（延べ人数）では、道南9.2%、道北15.7%、オホーツク6.1%、十勝7.1%、釧路根室7.0%で道央が54.9%となっている状況です。

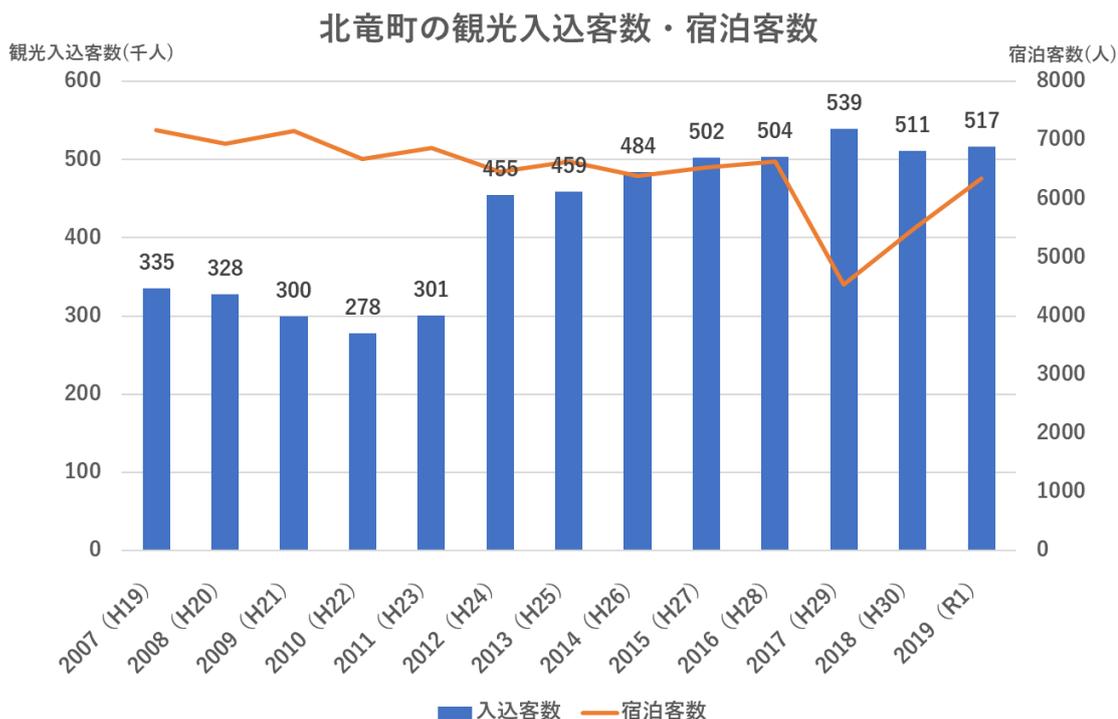


出展：2019年度（令和元年度） 北海道観光入込客数調査（北海道経済部観光局）

(2) 北竜町の観光入込客数・宿泊客数の推移

近年の北竜町の観光入込客数の傾向をみると、2012年度（平成24年度）に農畜産物直売所みのりっこのオープンにより増加して以降、概ね右肩上がりに推移しています。

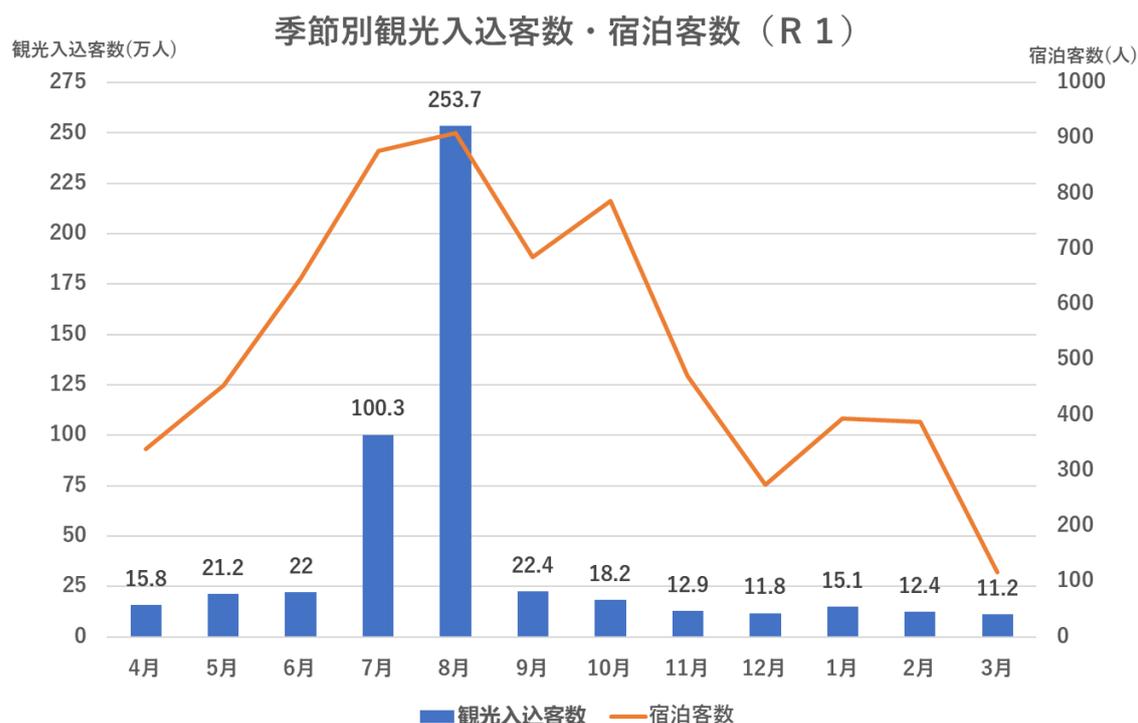
また、宿泊客数については、道の駅のリニューアル工事に伴い減少した2017年、2018年を除き、横ばいで推移しています。



出展：北海道観光入込客数調査（北海道経済部観光局）

（3）北竜町の季節別観光入込客数・宿泊客数の推移

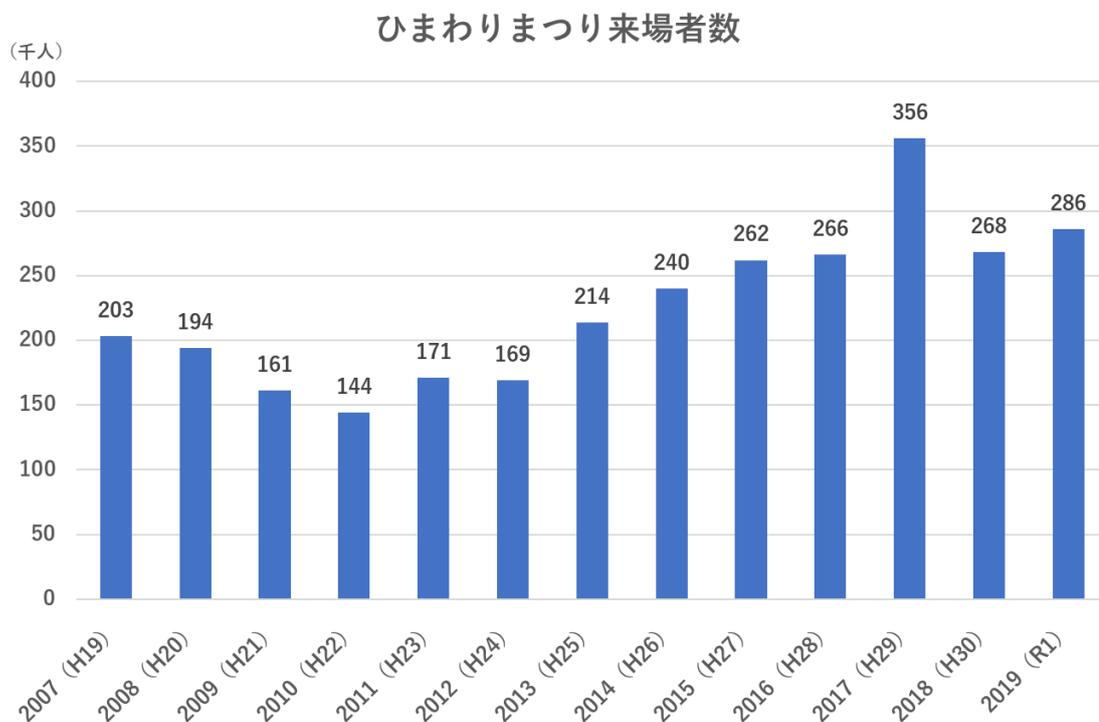
2019年度（令和元年度）の季節別観光入込客数・宿泊客数をみると、ひまわりまつりシーズンを迎える7月、8月に観光入込客数及び宿泊客数ともにピークを迎えており、入込状況に季節的偏在が見られます。



出展：北海道観光入込客数調査（北海道経済部観光局）

(4) ひまわりまつりの来場者数の推移

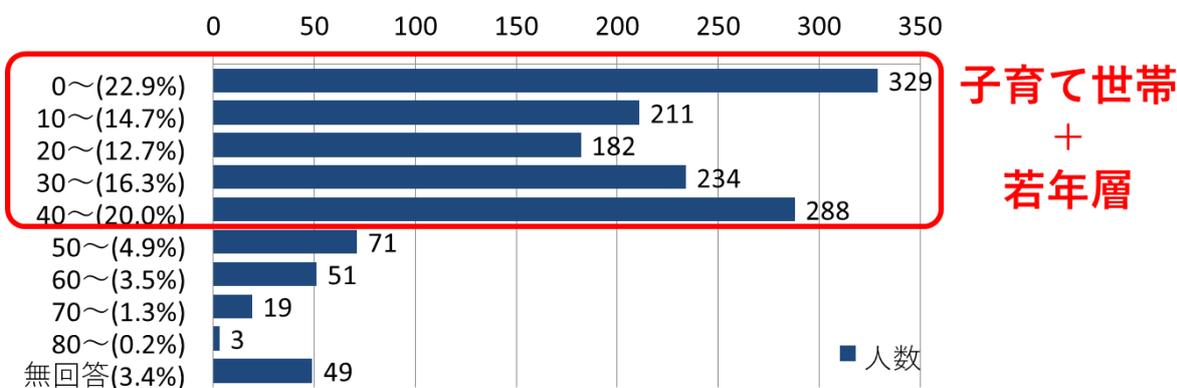
ひまわりまつりの来場者数は、北竜町全体の観光入込客数の大部分を占め、2017年には過去最高の来場者数を記録しました。多少の増減はありながらも、近年は右肩上がりに推移している状況にあります。



(5) ひまわりまつりの来場者の特性

令和元年度に地方独立行政法人 北海道立総合研究機構がひまわりの里で実施したアンケート結果を基に来場者の特性を整理しました。

<来場者の年齢>



40代以下が86.6%（1,244人）と大多数を占めており、ひまわりの里には主に子育て世代と若年層が多く訪れていることが分かります。

<道内客と道外客の割合>



道内客と道外客の割合は8：2となっており、本町には道内客が多く訪れています。

表1. 道内の内訳（上位5つ）

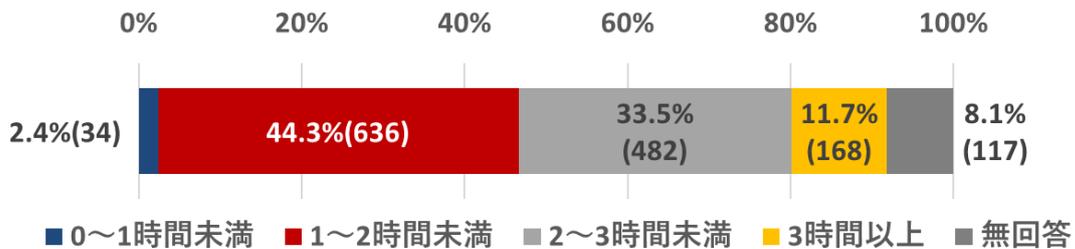
市町村名	人数
札幌市	635
旭川市	100
江別市	41
苫小牧市	22
千歳市	21

表2. 道外の内訳（上位5つ）

市町村名	人数
神奈川県	48
埼玉県	32
東京都	31
愛知県	30
千葉県	30

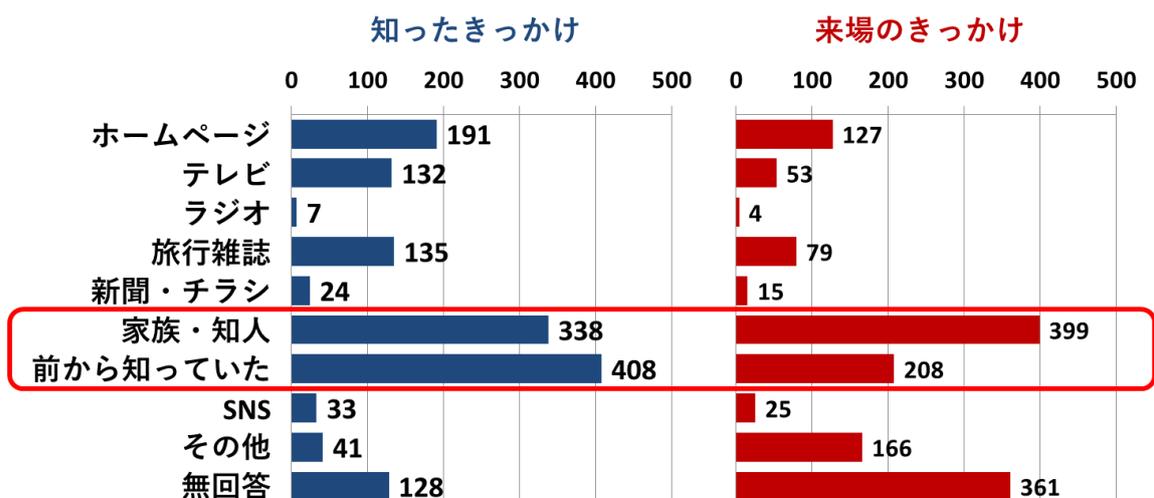
道内のうち札幌市が最も多く、次いで旭川市、江別市と1～1.5時間圏内からの来場者が中心となります。

<滞在時間>



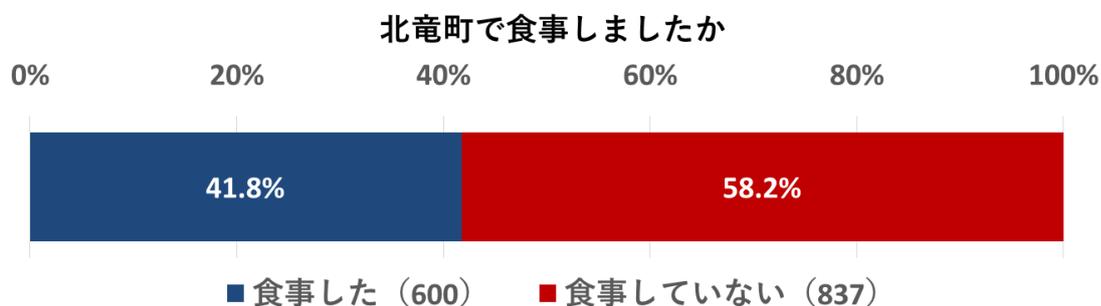
平均滞在時間は1.7時間、約80%が2時間未満の滞在となっていることから滞在時間を延ばすための取り組みが必要です。

<知ったきっかけ・来場のきっかけ>

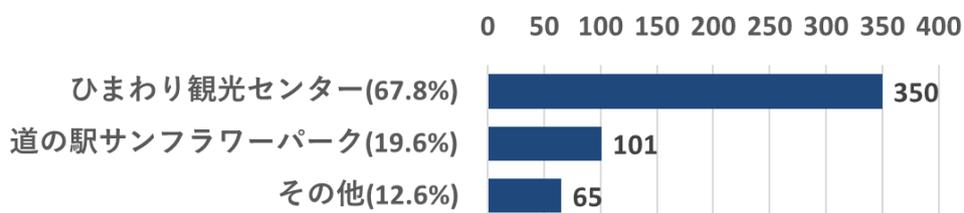


「家族・知人」「前から知っていた」が多いが、「テレビ」や「SNS」がきっかけとなった来場者が比較的に少ないため、今後の情報発信手段としてとても有効であると考えられます。

<購買動向>

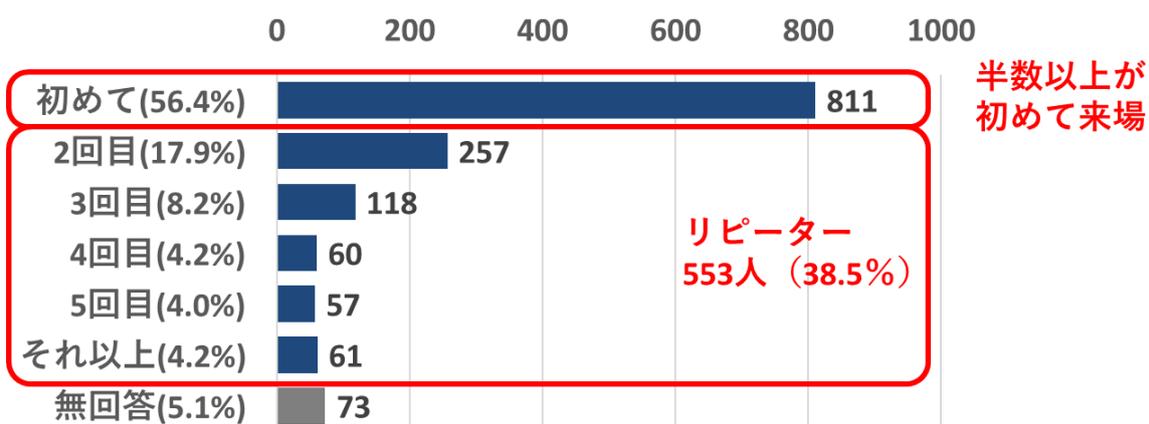


どこで食事しましたか



北竜町に来て、町内で食事をした人は全体の約4割程度に留まっていますが、そのうち約7割が観光センター内で食事をしています。また、お土産を購入した人も全体の2割程度となっており、これらの購買率を向上させることにより、観光消費額の増加が見込めます。

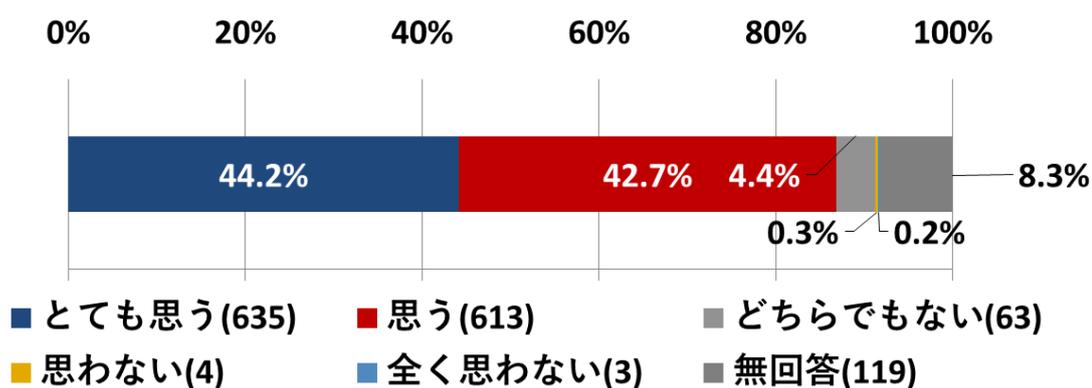
<来場回数>



リピーターの割合は全国平均で37.2%であるため※、同程度のリピーターを確保していると考えられます。

※じゃらんリピーター追跡調査を参照。

<再来訪意向>



「とても思う」と「思う」を合わせると86.8%であり、ひまわりの里の満足度が高いことが推測されます。

第3章 北竜町観光の課題

1 北竜町観光の課題

北竜町の観光推進においては、以下のような課題を抱えており、全町をあげた早急な対策の推進が必要です。

①通年観光

本町は夏に観光客が集中し、それ以外の季節は観光客数が落ち込む状況にあります。今後、閑散期における誘客促進を強化し、ひまわりの里に年間を通してより多くの人々が訪れ、滞在する観光地づくりに向けた取組が求められます。

また、ひまわりの里をはじめ、北竜町の農村景観を活用した観光ツーリズムの検討が必要です。

②名物・お土産品等の開発

ひまわりの里では、自信を持って薦める事が出来る名物・お土産品が多くありません。

ひまわりの里の価値や特別感を高めるためには、ひまわりの里に“来なければ”食べられない、購入できない名物・お土産品の開発が必要です。

③情報発信

気候等によって毎年の見頃時期が左右されるため、開花や見頃状況等に関して、タイムラグが少なく、かつ的確に相手に伝えるための情報発信が必要です。また、情報を届けたいターゲットによって発信方法を工夫していく必要があります。

④ひまわり以外の観光資源の発掘・磨き上げ

本町の観光は、通過型・一季型観光が中心で滞在時間は短く、ほとんどが日帰り客となっています。

滞在時間を伸ばすためには、「見る」だけの観光ではなく、体験プログラムや新たな観光資源の発掘と磨き上げが必要です。

併せて、北竜町の観光資源をプロモーションする組織・人材の育成が必要です。

⑤財源確保

ひまわりの里は主に行政からの補助金、委託費などによって運営されています。

将来にわたり安定的かつ継続的な運営を行うためには、独自財源の確保に向けた取り組みが必要です。

⑥ひまわりの里の整備

観光センターや展望台の老朽化や機能不足への対応が必要となってきたり、ひまわりの里をより魅力的にし、満足度を高めるための整備をしていく必要があります。

(1)ひまわりの里の整備(各施設の現状と課題)

①展望台



老朽化
(10年経過)

印象に残らない
デザイン

天板が狭い

階段が狭い

高さは適当か

バリアフリー
未整備

②観光センター



③その他

メインの畑が
排水路で分断
されている

子どもの
遊び場がない

夏だけの施設に
なっている

園内に休憩
スペースがない

滞在時間を
延ばすための
仕組みが必要

通年で活用
できるステージ
があるといい

ノノの森との
一体性がない

ノノの森に
立ち入るお客さん
が少ない



第4章 北竜町の目指すべき姿

1 北竜町の目指すべき姿

～北竜観光振興と農業～

観光客が安全安心な農業のまちで癒やされ、町民は誇りをもち、経済活動を行う持続可能なまちづくり



- ・安全で美味しい農業とひまわりの花咲く楽しいまちづくり
- ・あらゆるものが観光資源と考え磨き上げ、魅力アップを図る
- ・年間を通して観光客が訪れるために、ひまわりの里の整備を充実する
- ・町の知名度を上げるために、話題性のある、創造的なまちを目指す

～ひまわりの里～

あかるい農法ひまわりの北竜町の象徴「ひまわりの里」を世界に情報発信できる景観づくり



- ・町民が自慢できる観光ツーリズムを確立する
- ・来訪者の購買率や消費額を上げる美味しい食事と特産品の開発を行う
- ・まちのファンを増やし、大学、研究機関、専門家、町外企業等とネットワークを築く

(1) 通年観光

ひまわりの里に年間を通して、多くの人々が訪れ、滞在する観光地づくりに向けて、ひまわりをはじめ季節に応じた花の植栽、話題となる隈研吾設計による観光資源の新展望台や新観光センター、また、北竜体験、イベントの開催を行う。

	主な取組み	取組み内容
(通年)	①ひまわり以外の花の栽培	ひまわり以外の花を栽培することで、夏以外の季節でも、魅力がある町を目指します。 例) 春：チューリップ、スイセン、クロッカス、菜の花 夏：マーガレット、サンフィニティ 秋：麦畑、コスモス、ダリア
	②フィルムコミッションの誘致	映画やCM、アニメなどのロケを誘致し、町内の風景・施設の映像を通して北竜町をPRするとともに、ロケ地を巡るフィルムツーリズムを促進します。
	③アクティビティ	・ジップライン ひまわり畑の上を滑走できるジップライン等の体験アクティビティの導入を検討します。 ・ひまわり迷路 排水路埋設により形成された約5畝のひまわり畑に、テーマに沿った図案の迷路を作り、自分に合った迷路に入って楽しむことができる。
	④観光ツーリズム	・ひまわりツーリズム ・展望台ツーリズム ・味覚ツーリズム
(春)	①オーナー制度のひまわり栽培体験	ひまわり畑の一区画のオーナーを募集し、世界にひとつしかないひまわり畑を造成。 種まき・草取り等、オーナー自身が作業するため、夏以外の来町促進が図られます。 また、ひまわり栽培を通じた、企業の新人研修や人材育成研修プログラム（マネジメント・リーダーシップ・コミュニケーション・メンタルヘルス）としての活用も見込めます。
(夏)	①ひまわりの花摘み体験	お持ち帰り用のひまわりを自分の手で摘んでもらう。
	②ドライフラワー体験	ブリザードフラワー、ハーバリウムの製作
	③ひまわり染め体験	ひまわり花びら摘み-乾燥-煮だし-染色-乾燥体験
(秋)	①ヒンメリ工芸体験	フィンランドの麦わらストローを使ったハンドメイド伝統品
	②フォトコンテスト	北竜町内を素材とする春から冬、朝から夕方と変化する「という（十色）の風景」の写真のコンテストを行う。
	③豆腐作り	手作り豆腐を楽しむ。美味しいおから料理づくり。
	④ザブザブ籠作り	農作業や荷造り用の結束バンドを使いかごバックを編む。汚

		れたらザブザブ洗うことが出来て、すぐ使える。
	⑤釜戸飯づくり	釜戸を作り、昔ながらの薪によりご飯を炊く。
(冬)	①スノーモービル体験	ひまわりの里の雪原でスノーモービルの試乗体験やバナナボート等の乗車体験を行う。
	②ひまわりロード クロスカントリー	ひまわりの里から北竜温泉までクロスカントリーコースを作り、歩くスキーを履いてひまわりの里まで行き、ひまわりの里で雪と戯れ、帰りもスキーを履いて戻り温泉に入る。
	③ひまわりの回廊	雪の壁にひまわりを掘り、黄色い明かりをつける。雪のオブジェのライトアップも実施する。
	④プロジェクションマッピング	ひまわりの里の雪原に夏のひまわりを投影するプロジェクションマッピングを実施することで冬期間の観光客増を図ります。
	⑤ひまわりシーズアートコンテスト	ひまわりの種を使った絵画等の芸術作品のコンテストを行います。

(2) 名物・お土産品、時空商品の開発

自信を持って薦める事ができる品質の良い北竜特産品、美味しいと話題となる名物料理の開発を行う。さらに、ひまわりの里の空間スペース利用の商品開発（ワーケーションなど）など、これまで資源化してこなかったまちの魅力を、未来を見据えた多彩な観光資源開発を行う。

主な取組み	取組み内容
①ひまわりサブレ	町内のお菓子作りに興味のある人方に呼び掛け、農産物加工実習センター「パルム」等を利用して北竜町産の材料を中心にレシピづくりを行います。また、併せてパッケージについても検討を行います。ただし、商品開発のトータルデザインや加工技術、パッケージデザインに不足の部分は、外部の指導助言を頂きながら行い、製造に関しては、再度町内の協力者を呼びかけ、「パルム」で包装を行い、ひまわりの里や道の駅で販売します。
②ひまわりライスおむすび	「国民の命と健康を守る安全な食糧生産のまち」として、稲作において日本で唯一の農産履歴公表 J A S を取得し、日本農業賞大賞を受賞したひまわりライスを世界中から訪れる方々に誇りを持って食べていただくために、ひまわりライスおむすびコンテストを開催し、ノーマルおにぎり部門と焼きおにぎり部門の入賞作品を商品化して、ひまわりの里や町内で販売します。
③ひまわりの里オリジナルカレンダー作成	フォトコンテストの入賞作品により8月から始まるオリジナルカレンダーを作成し、土産品の販売促進を図ります。

(3) 情報発信と移住者誘致

S N S等を活用し、新しいひまわりの里整備への戦略的なプロモーション活動を積極的に展開し、地域おこし協力隊員など移住者を積極的に募集し、地場農産物を活かした商品開発と販売促進へのチャレンジを支援する。

主な取組み	取組み内容
①SNS による PR	口コミの大きな影響力を生かすため、観光情報の発信手段として、フェイスブックやツイッターなどS N Sの活用を推進します。
②開花状況やイベント情報を細かく情報発信	北竜町ホームページや観光協会ホームページ、S N S等により最新情報を発信し、観光客の旅行意欲を喚起させる取り組みを進めます。
③インバウンド向けガイドブックの作成	急増する外国人観光客に対応するため、それぞれの国の人が編集したインバウンド向けのガイドブックを作成し、効果的な観光プロモーションを推進します。
④地域おこし協力隊員の募集	様々な地域課題解決に向けた募集を行う ひまわり観光振興、情報発信、イベント開催 地場農産物を活かした商品開発と販売促進 北竜温泉のレストラン部門、売店部門、宿泊部門の企画運営

(4) 新しい物語と人材育成

あかるい農法は、新しい観光資源となり、美しい農村空間はワーケーションの場となり、さらに、魅力ある体験プログラムの開発による滞在型観光は、移住にもつながり、北竜町が多様な生き生きとした場となるように、人材育成を行う。

主な取組み	取組み内容
①農業体験	田植え、稲刈り、メロン収穫、スイカ収穫、芋堀、大根抜き等の農業体験。北竜町農業に関する講話。
②ひまわり体験	播種、草取り、刈り取り、搾油、ひまわり料理教室等のひまわり体験。ひまわり油に関する講話。ひまわりのまちづくりに関する講話。
③そば打ち体験	一般社団法人全麵協が認定する素人そば打ち高段位取得者等の指導により、そば打ち体験が出来ると共に、打ち立てのそばを味わう事が出来ます。
④和太鼓体験	日本の伝統文化であり、子供から高齢者まで、国籍を問わず気軽にバチを持って、身体全体で思いっきり叩くと振動が体に伝わり、心に響き、ストレス解消にもつながります。
⑤地域づくり人材育成事業	地域課題解決に向けた（人材育成、ひまわりを核としたまちづくり、産業振興、イベントの開催など）まちづくりに意欲を持って取り組む個人や団体への支援を行います。

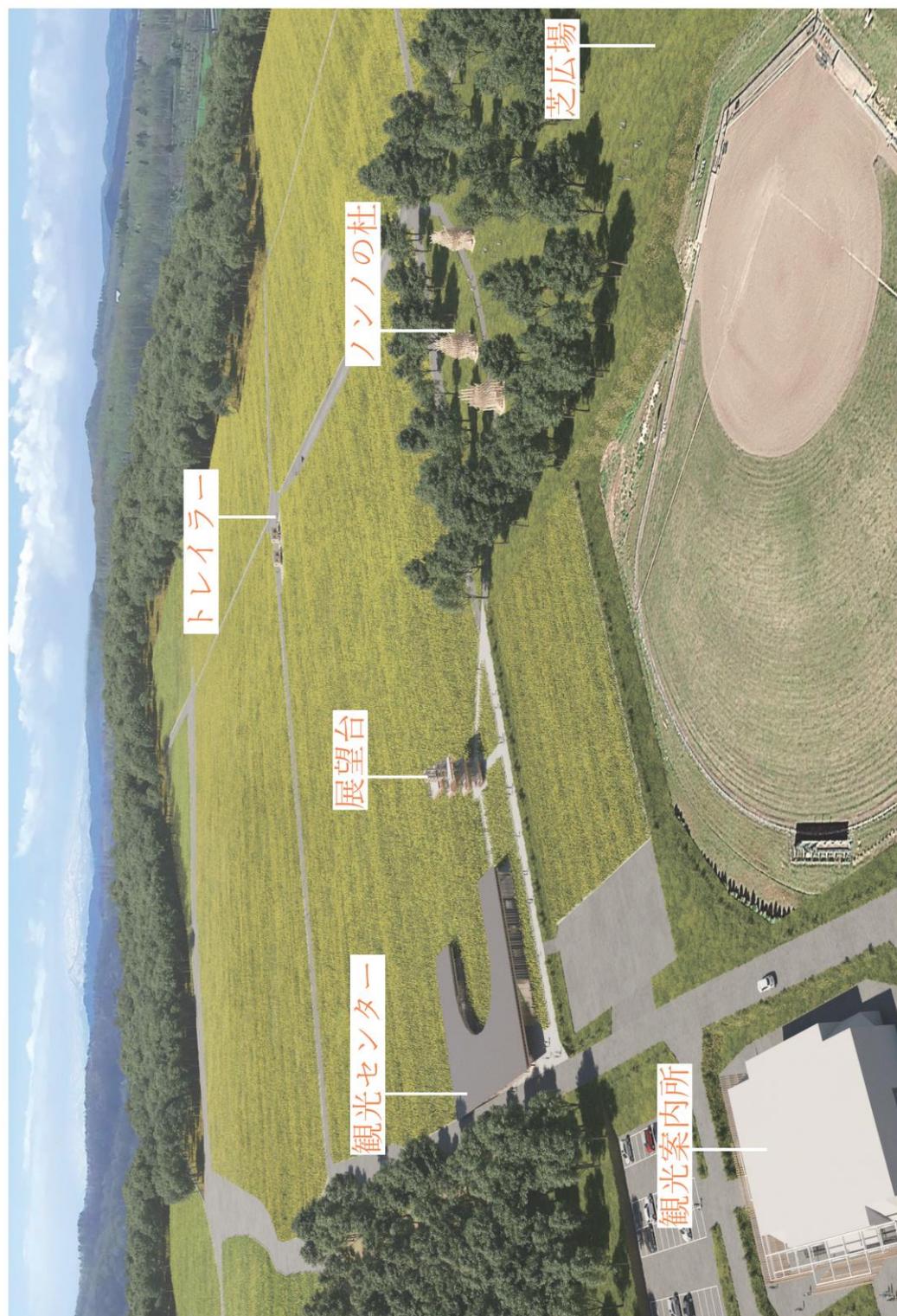
(5) 財源確保

国や道の財源とふるさと納税の確保、また将来にわたり、安定的かつ継続的な運営を行う独自財源の確保のため、様々な取組みを検討する。

主な取組み	取組み内容
①いいひまわりを咲かせるための協力金	<p>ひまわりの里を訪れた方に「いいひまわりを咲かせるための協力金」として、100円以上の協力金を募り、お礼に「ひまわりの種」や「絵葉書」を配ります。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの方にご協力を戴くための方法を検討。
②レンタル自転車	<p>ひまわり自転車(大人用・子供用)を1時間100円で貸出。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電動自転車導入の検討。 ・タンデムバイク(二人漕ぎ自転車)導入の検討。
③ふるさと納税	<ul style="list-style-type: none"> ・ガバメントクラウドファンディング(用途を指定したふるさと納税)による募集を行う。 ・企業版ふるさと納税の募集を行う
④ひまわりの里入場料有料化の検討	<p>ひまわりの里の来場者から入場料の徴収を検討します。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道内の他のひまわり畑は無料で見る事が出来る。 ・気持ちよく支払ってもらえる方法を検討。 ・有料化転換に値するひまわりの里の整備が必要。 ・有料化と共に毎年新たな取り組みと演出が必要。 ・入場料徴収ゲートの配置。
⑤ひまわりの里駐車場料徴収の検討	<p>ひまわりの里の駐車場の駐車料金の徴収を検討します。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道内の他のひまわり畑は無料で見る事が出来る。 ・気持ちよく支払ってもらえる方法を検討。 ・有料化転換に値するひまわりの里の整備が必要。 ・有料化と共に毎年新たな取り組みと演出が必要。 ・駐車場ごとに駐車料金徴収員の配置が必要。 ・ひまわり畑までの近さに応じて駐車料金を設定。
⑥観光協会法人化の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・法人化に伴い収益事業を実施し、運営事業に充てる。 ・事業運営の柔軟性が図られる。 ・事務局長の人件費に充てられる。
⑦クラウドファンディング	<p>隈研吾デザインの建築に対する寄付を募ります。</p>
⑧民間資金	<p>民間投資会社による資金を募集します。</p>

(6) ひまわりの里の整備

世界へ発信する、ひまわりの里



デザインコンセプト

北竜のひまわりを強調する 木組み

ギンガムチェックから着想し木組みを用いる



WOOD / PILE 2018
設計：隈研吾建築都市設計事務所

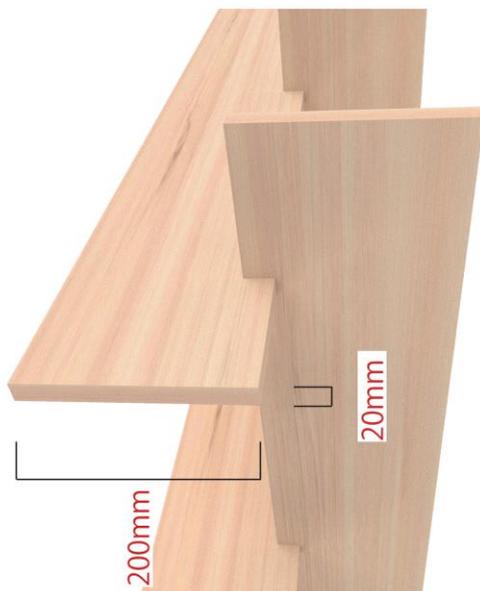


COEDA HOUSE 2017
設計：隈研吾建築都市設計事務所

あがる
曲辰法
北海道
ひまわりの
北竜町

梅原デザイン事務所 資料参照

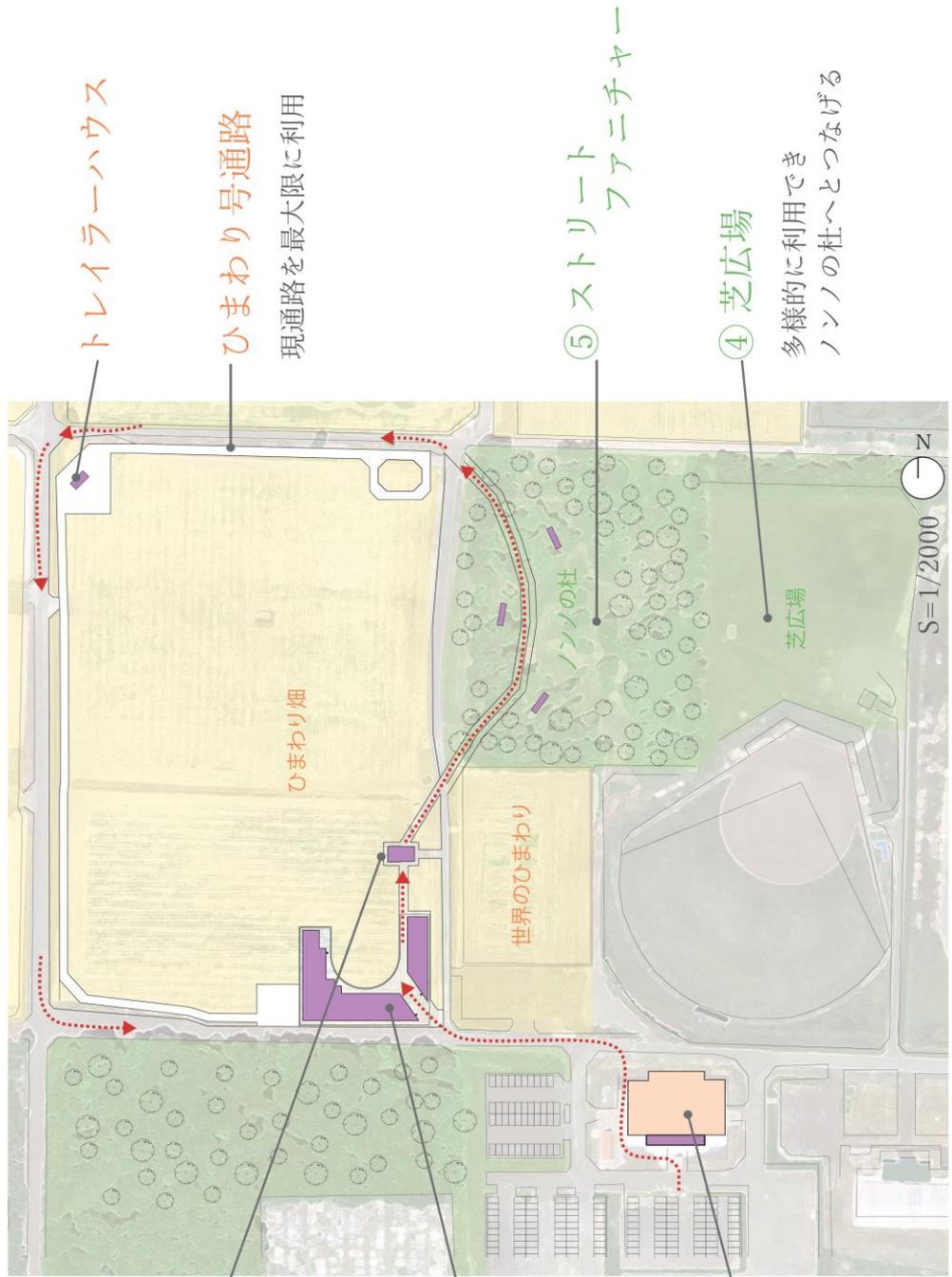
薄い木材を使用し周辺に溶け込ませる



断面構成

ひまわりと一体になるまちの拠点

全体配置計画



① 新展望台

ひまわり畑のシンボルツリー

② 新観光センター

レンタサイクル受付、
迷路受付を附属

③ 観光案内所

スポーツセンターと
観光案内所が共存する
施設として改修

トレイラーハウス

ひまわり号通路

現通路を最大限に利用

⑤ ストリート
ファニチャー

④ 芝広場

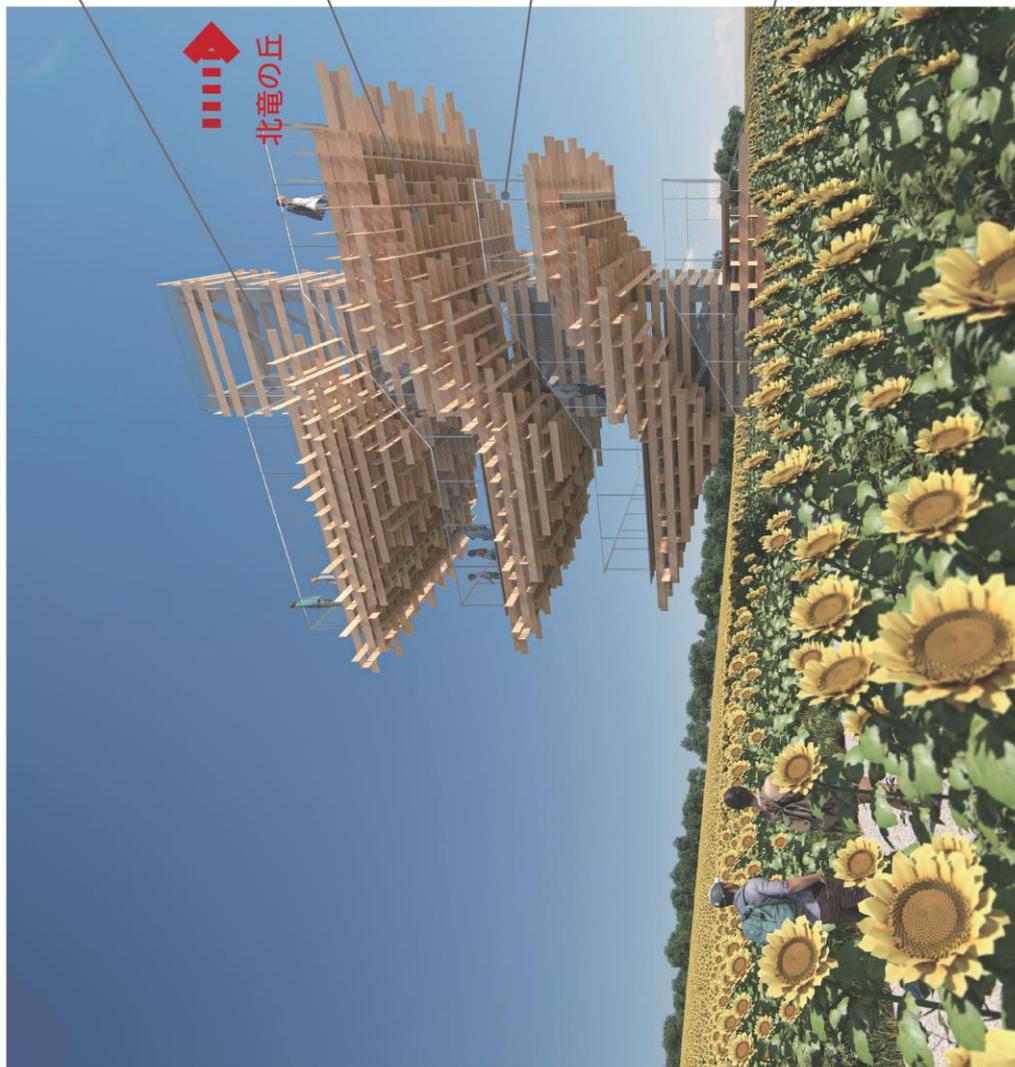
多樣的に利用でき
ノンノの杜へとなげる

S=1/2000



シンボルツリーとなる展望台

① 展望台



壁：ガラス



木組：道産カラマツ w20 × h200



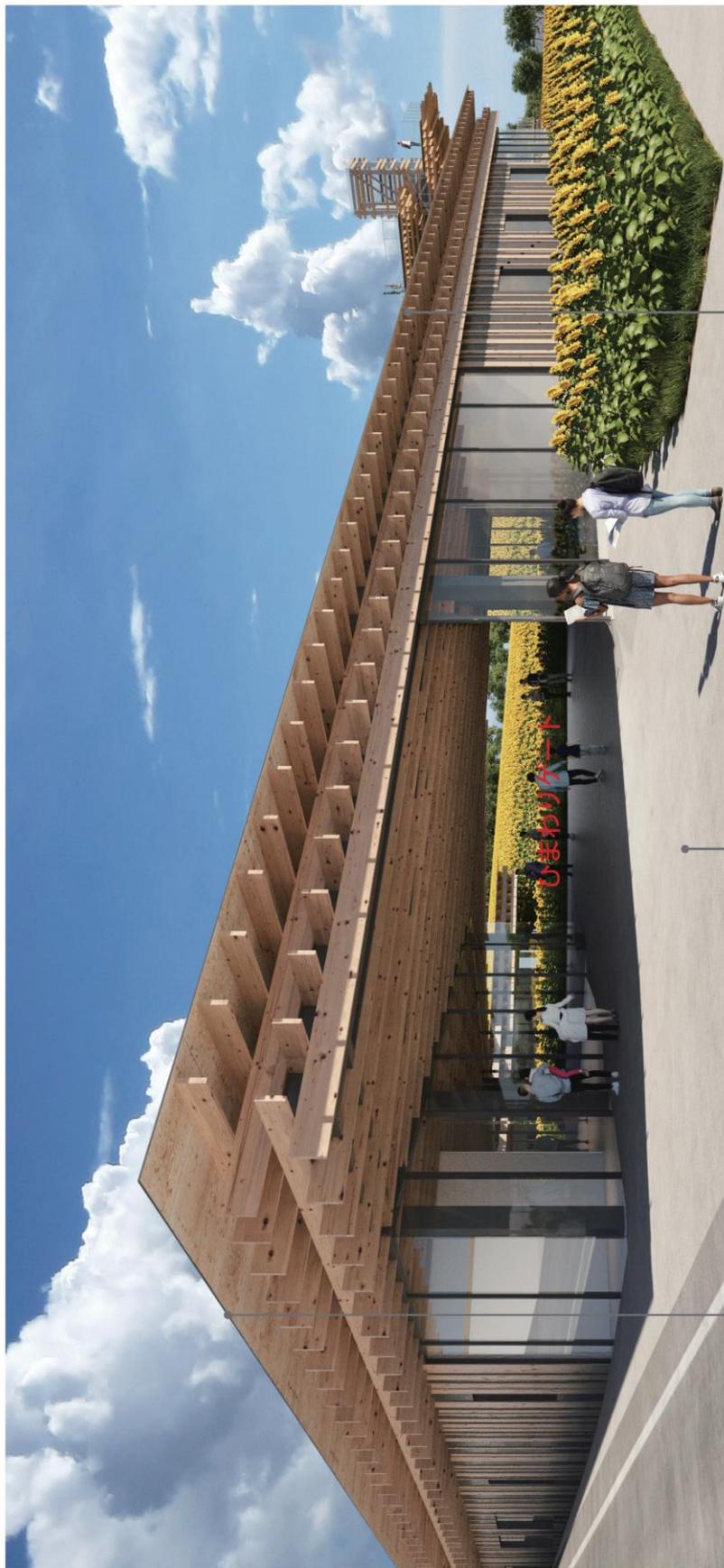
手すり：メッシュフェンス h1200



床：人工木デッキ



② 観光センサー 人々を迎い入れる木組の大屋根



屋根：アスファルト防水

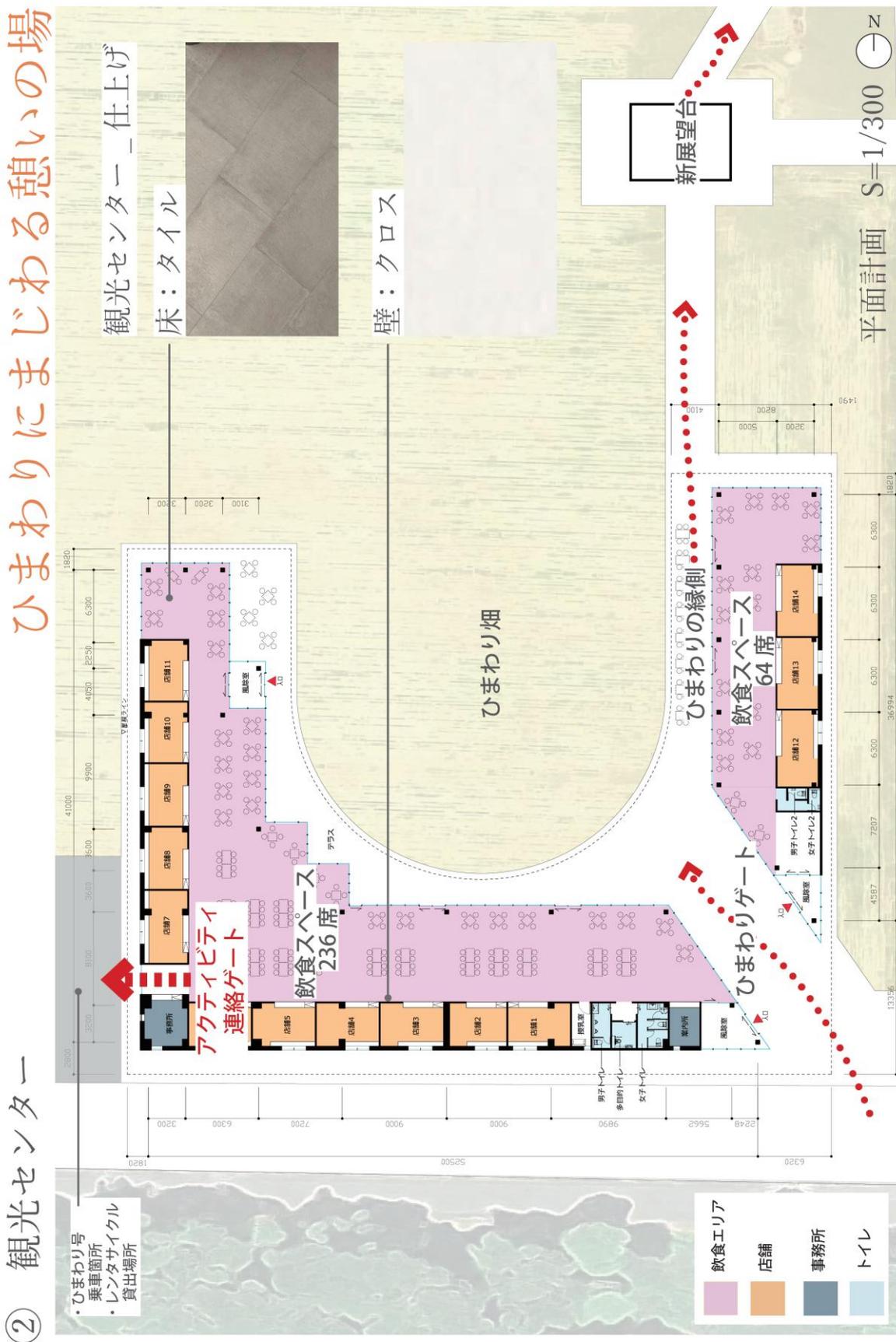


床：脱色アスファルト



木組：カラマツ w20 × h200





③ 観光案内所

明るく開かれた観光案内所



屋根：アスファルト防水
既存屋根防止撤去の上施工



外壁：合成樹脂
エマルジョンペイント（白）
既存サイディングボードの上に塗装

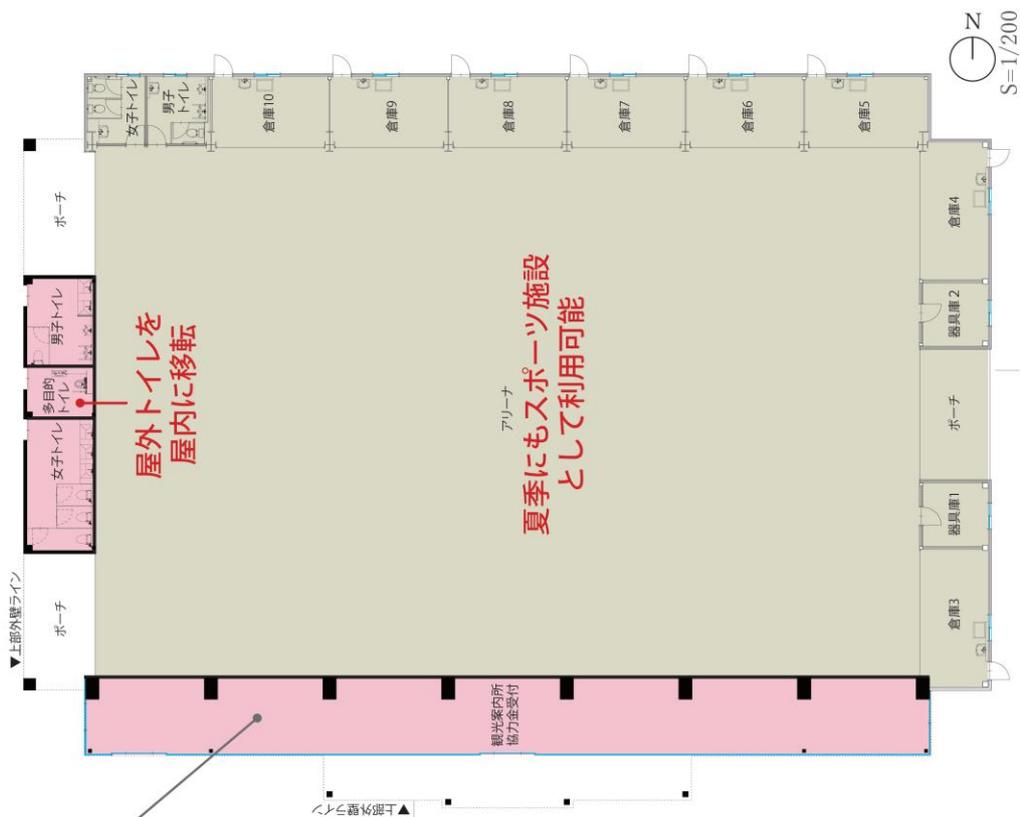
木組：カラマツ w20 × h200



大開口が生み出す開放的な情報発信施設

③ 観光案内所

観光案内所 活用レファレンス
 マルシェ / 展示 / ワークショップ
 / 多目的スペースect

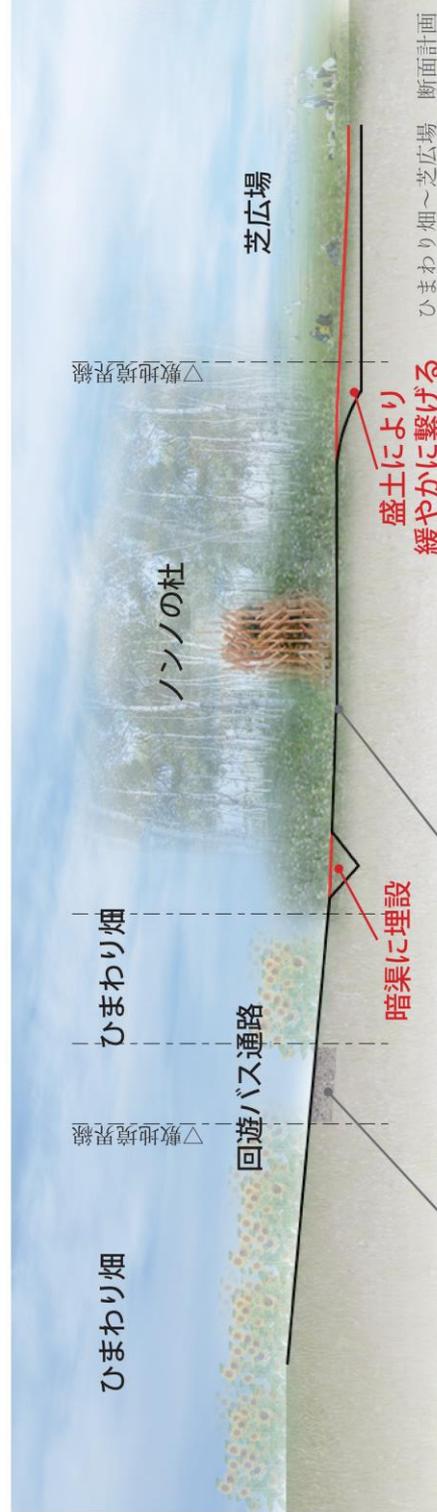


夏季にもスポーツ施設として利用可能

屋外トイレを屋内に移転

④ 芝広場

にぎわいが連続する芝の丘



外構_仕上げ

外構床: 脱色アスファルト 外構床: 吹付芝



広場利用イメージ



富岡市役所 kkaa



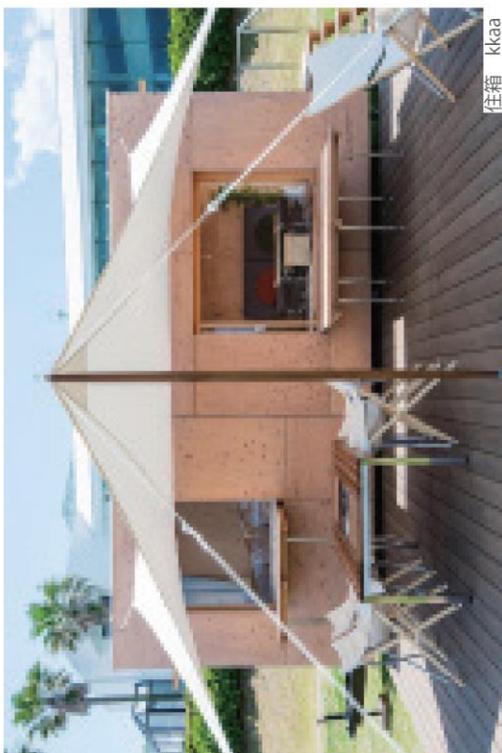
つみきのひろば kkaa

⑤ ストリートファニチャー

にぎわいをつなぐストリートファニチャー



⑤ トレイルハウス
居場所がうまれるトレイラーハウス



スケジュール

- 令和2年から10年間で、パブリックコメントや社会情勢や財政状況を十分に考慮し、関係機関の支援を頂きながらソフト事業・ハード事業を計画的に整備します。

概算事業費

- ひまわりの里の施設の課題を全面的に解消する施設を整備した場合、約14億円の事業費がかかります。実施にあたっては、関係機関と協議を重ね、少しでも町費を抑制するため、様々な補助金・交付金の活用、その他財源確保を検討し、有利な起債を申請しながら事業を推進します。
- 新展望台 107,000,000円
- 新観光センター 821,000,000円
- 既存観光センター改築 177,000,000円
- 排水路埋設・サブグラウンド整備・イベント広場整備 275,000,000円
- ノノの森整備 10,000,000円
- トレーラーハウス 5,000,000円

維持運営費

- 上記の施設を全て整備した場合、毎年の運営費や維持費は約3300万円との試算になります。そのため、様々な財源徴収方法を検討し、町費を抑制する中で、維持運営します。

第5章 北竜町の観光推進体制

1 計画推進の主体と役割

本計画の着実な推進のため、その主体となる、町民、観光関連団体、行政の役割について以下のとおりとします。

主体と役割

(1) 町民の役割

町民は、長年にわたり、まちの歴史や財産を築き上げてきました。今日、インバウンドの進展など北竜町観光を取り巻く環境が変化している中、町民は、北竜町の持つ自然・歴史・文化への理解を深めるとともに、北竜町観光の魅力自ら再発見し、郷土に対するさらなる愛着と誇りをもって北竜町観光に関っていくことが求められています。

また、温かく親切なおもてなしの心を持って観光客を迎え、ともに北竜町の魅力を共有することが期待されています。

(2) 観光関連団体の役割

北竜町ひまわり観光協会をはじめとする観光関連団体は、観光振興を推進する中核的存在としての役割を發揮するため、組織体制の充実・強化に努めます。また、団体間の連携を強化するとともに、町民と行政との調整・連携を図り、効果的な誘致宣伝の展開や町民への観光理解の普及、ホスピタリティの向上に努めます。

(3) 行政の役割

北竜町は、町民、観光関連団体、国や北海道の協力を得ながら、観光振興施策を推進するとともに、各主体が自主的に取り組む観光事業への支援に努めます。

また、北竜町観光を取りまく社会的変化に対応するため、大学、研究機関、専門家、町外企業等と協働し、現状分析、ニーズの把握、情報発信を行い、観光関係団体に積極的に情報を提供・共有化することにより、町全体の観光振興を図ります。

さらに、周辺市町村と連携した広域の観光振興の取組を進めます。

また、各課との連携を十分に図るとともに、より深い知識を持つ職員の育成に努め観光振興を推進します。

参考

1 北竜町ひまわりの里基本計画策定に係る経過

(1) 北竜町ひまわりの里基本計画策定委員会の開催

北竜町ひまわりの里基本計画策定委員会を設置し、基本計画について議論しました。

策定委員会は、学識経験者・専門家、観光関係団体等、行政の25名で構成され、全5回開催されました。(委員名簿は次頁)

回数	日時	開催内容
第1回	平成31年 4月21日 (日)	<ul style="list-style-type: none"> ・副町長挨拶 ・委員長、副委員長選出 ・概要説明 ・展望台・観光センター・観光客増加策等について
第2回	令和元年 6月30日 (日)	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントに寄せられた意見について ・展望台について
第3回	令和元年 8月26日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわりまつりの結果報告 ・ひまわりまつりのアンケート結果の速報について ・観光センター、展望台について ・ソフトについて
第4回	令和元年10月22日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわりの里整備計画 (ハード) について ・おむすびコンテストの取り組みについて ・新しいビジネスモデルについて ・ひまわりまつりのアンケート結果について
第5回	令和 2年10月18日 (日)	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわりの里基本計画書について

(2) 北竜町ひまわりの里基本計画策定委員会委員名簿（敬称略）

区分	団体名・職名	氏名
学識経験者・専門家	立正大学 特任教授（江戸川大学名誉教授）	鈴木 輝隆【委員長】
	東京大学 教授（隈研吾建築都市設計事務所）	隈 研吾
	武蔵野美術大学 客員教授	梅原 真
	マルシエ株式会社 取締役会長	谷垣 雅之
	税理士法人JAZY会計事務所 東京事務所長	石川 直也
観光関連団体等	北竜町ひまわり観光協会 会長	佐光 勉【副委員長】
	北竜町商工会 会長	藤井 雅仁
	北竜町ひまわり観光協会 副会長	
	北竜振興公社サンフラワーパーク営業所 支配人	高畑 哲也
	JAきたそらち青年部北竜支部 支部長	小野 嵩（加藤 亮）
	JAきたそらち女性部北竜支部 支部長	澤田 貴子（黄倉 桂子）
	JAきたそらちフレッシュミズ北竜支部 支部長	竹林 玲子（堂前 昌江）
	北竜町商工会青年部 部長	佐々木 進一
	北竜町商工会女性部 部長	藤田 真理子
	ひまわりの里売店組合 組合長	
	ひまわりの里売店組合 副組合長	沖野 学
	北竜町パークゴルフ協会 会長	干場 正
	北竜町ボランティア協会 会長	田中 盛亮（川田 浩二）
	黒千石事業協同組合 理事長	高田 幸男
	NPOあかるい農法 代表理事	竹林 由美子
	北竜町竜トピア会 会長	澤田 正人
	北竜町町内会連絡協議会 会長	谷本 明（岩本 利男）
	NPOひまわり 施設担当者	藤信 清彦
チームノースドラゴン 代表	高田 昌幸	
北竜町議会総務産業常任委員会 委員長	北島 勝美	
行政	北竜町 副町長	高橋 利昌
	北竜町産業課 課長	細川 直洋

() 内は変更後の職名及び委員名

2 策定委員の主な意見およびパブリックコメント

ソフト① ひまわりの里集客計画（魅力アップ）について

策定委員の意見

- ① ドラマを誘致する。フィルムコミッション。勝手にロケ出来るひまわり畑の用意。
- ② ひまわりの里以外にひまわり関係で訪れることができる場所があればいい。
- ③ 国道から観光センターにかけて「のぼり」があり、ひまわり畑が見づらい。余計な物がないということが大切。
- ④ 子どもや高齢者、障害者にやさしい観光地であってほしい。
- ⑤ 天気が悪くても気持ちよく見られる施設に。
- ⑥ いろんな種類のひまわりを混ぜて植えて、お客さんに刈り取ってもらい花束を作る。
- ⑦ マスコミ等を最大限利用。

パブリックコメント

- ① 花火は、規模は大きくないが工夫がなされており、評判が良いので続けて欲しい。
- ② 観光バスを呼び込むため、プランにソフトクリーム引換券等を組み込む。

ソフト② ひまわりの里経営計画について

策定委員の意見

- ① 7、8月から始まるカレンダーを作って観光協会で販売するのはどうか。
- ② 理想は観光協会の法人化だが難しい、今後も行政が管理運営するしかない。ただし、情報共有をしっかりとすること。
- ③ 入場料金や駐車料金を検討する時期だと思う。

パブリックコメント

なし

ソフト③ ひまわりの里の情報発信について

策定委員の意見

- ① SNS等インターネットを通じたPRを積極的に行う。
- ② 梅原委員に作成いただいたデザインやキャッチコピーをポスターやパンフ、テレビでのPR等に積極的に活用。
- ③ 開花状況やイベント情報を常に細かく情報発信。
- ④ インスタ・facebook等あらゆるものを活用。

パブリックコメント

- ① HP、Facebook、Instagram、YouTube
- ② その国の目線によるガイドブック作成

ソフト④ ひまわりの里の名物の開発について

策定委員の意見

- ①個人で開発するのも良いが、北竜町は〇〇が名物と言えるように統一されたものがない。
- ②スイーツを開発するのもいいのでは。
- ③北竜町の農産物にこだわったもの。米・もち米・とうふを使ったスイーツはどうか。
- ④北竜のスイーツを選定するための「日本選手権」の実施。
- ⑤種をふんだんに使ったパウンドケーキやクッキー。メロンやスイカを使ったゼリー。ひまわりの花びらのキーホルダーやイヤリング、ピアス、本のしおりなど。
- ⑥ひまわりサブレはどうか。
- ⑦肉系の名物の開発
- ⑧個人で作るよりも観光協会として開発してほしい。

パブリックコメント

なし

ソフト⑤ 四季を通したひまわりの里の活用方法について

策定委員の意見

- ①冬のひまわり
雪原に大きなひまわりを描いて展望台から見る
雪原にプロジェクションマッピングでひまわりを映し出す 雪の回廊にひまわりの灯籠
- ②近隣との連携
秩父別町～ベルパークちっぷべつ、ちっくる、キービック初音、キャンプ場
沼田町 ～夜高あんどん
- ③「あぜ道を歩く」とか、「ひまわりの種まきや草取り」「ひまわりの刈り取り」などの体験観光
- ④ふるさと納税の返礼品を田んぼ一区画や、ひまわり畑の一区画にし、返礼品はその区画から収穫できるお米やひまわり油を送る。
寄付した区画が収穫の時期を迎えたら、自ら収穫に来てもらうなど。可能であれば苗や種を植えるところから参加してもらう。
- ⑤拡張できるスペースがあれば春と秋は他の花を植えてはどうか。そうなると休憩場所として通年で活用できる常設のカフェ等が必要になるが。
- ⑥過去にも通年観光をいろいろと検討したが、誰がやるのかという問題で消えてきた経緯あり。やはり難しい。
- ⑦冬期間の活用としてスノーモービル等が考えられるが、やるのは大変。
- ⑧輪作体系を考え、体験ができるものを考えてはどうか。じゃがいも堀りだとか、カボチャを採るとか、ひまわりの花摘み体験。
⑨ひまわりに特化すべきと思う。広大なひまわりを見せる。ひまわりの里の管理は、今は人がいなくて、やってくる人がいない中、やっとやっている状況。そんな状況で農業体験を運営する人がいるのか？

パブリックコメント

- ①麦畑とひまわり→麦わらストロー、麦わらアート（ヒンメリ）
- ②ハーブ（コリアン・パクチー・チャイブ・ミント・バジル・タイム・ローズマリー）とひまわり
・茨城県 ひたち海浜公園→春：ネフラー & スイセン & フェーリップ、夏：ヒマワリ、秋：コスモス & コキア
- ③キッチンカー 軽食・飲料の提供
- ④ひまわりの里を夏はマラソンコース（北商ロードレース）、冬はクロスカントリーコースをして活用

ソフト⑥ その他

策定委員の意見

- ①いま本州で北海道に泊まりで農業体験したいという人が待機だけで 2 万人いるということを聞いたことがある。農業体験をさせてはどうか
- ②1 日だけではなく長期滞在を促すように、連泊なら宿泊費割引や家族何人来ても 10 万円など長期滞在させるための企画があってもいいのではないかな。
- ③北竜町公認の「明るい農法ファミリー（仮）」を創設して、ファミリーには名前入りのギンガムチェックの名刺を持ってもらう。出張先などで「元気で健康なエネルギーを生み出す、北竜町の明るい農法ファミリーです。」と自慢しながら、名刺を配って北竜町をアピールしてもらう。
- ④商品開発のデザインを考えている人、新しいビジネスをしたい人、会社を作りたい人、「何でもクリエイティブ・カフェ」の創設。
- ⑤リピーター確保策として「農園サポーター」制度を創設。里で加工・販売している野菜等を近隣で栽培し、その畑を区切り、各区分に募集したサポーターを割り振って運営の手伝いをしてもらう（あくまで手伝いのみ。主たる運営者は別）
- ⑥ひまわり畑の中に蛇行した散策路と、ポイントごとに広葉樹で日陰を作りベンチを設置。
- ⑦ひまわりの種を使った絵を描いてもらい、種絵コンテストはどうか。
- ⑧町内で、趣味で何かを作っている方の作品を展示してはどうか。
- ⑨近隣市町村を巡る観光バスコースを作成。
- ⑩ひまわりの花を見て、メロンやスイカの収穫体験をするコース（農協観光が行っているようなコース）を作成。
- ⑪原点に戻り、全町民が庭先等にひまわりを植える
- ⑫ひまわり油と調味料の組み合わせ、混ぜたらドレッシングができるセットや卵黄と混ぜたらマヨネーズができるといった子ども向けの物も面白いのでは。

パブリックコメント

- ①体験型の観光が人気を集めているので農業体験はビジネスチャンスだと思う。
- ②体験として、「北竜町のお米でご飯を炊く」「大豆を使って豆腐を作る」「ひまわりの花びらで染める」「カゴを作る」というのはどうか。また、冬に温泉に泊まるお客様にも色々な体験ができると案内する。
- ③ヤマケン保養施設を宿泊施設として活用してはどうか。

ハード① 新展望台について

策定委員の意見

- ①（混雑や事故の防止のため）階段の付け方について上り下りを別々にしてほしい
- ②現在のような狭いものではなく、展望台の上でゆっくりひまわりが眺められる広いスペースがあれば良い。
- ③場所は畑の直近。散策しながら気軽に上がれる展望台。さらに一つだけではなく複数あれば見え方の違いを楽しめるので滞在時間も増加するのではないか。したがって観光センター一体型は費用対効果の面で疑問。
- ④観光センター一体型に賛成。ただし、行き来がゆったりできるようなものを。また色についてもしっかり考えて建ててほしい。
- ⑤不満が多いなら改築するのもやむを得ないが、現在の展望台でいいのでは。
- ⑥スペースを広くし椅子を置く。また、1階部分でも休めるようにしてほしい。
- ⑦スロープ付き。また、上り下りを別にし、混雑しないように。
- ⑧上の畑にも展望台があればひまわりの見方も変わる。

パブリックコメント

- ①展望台は、ひまわりの里を望むために必須であり、新観光センターの屋上という案に賛成。
カフェ併設については、冬期利用が多くないと思うので反対。
- ②上り下りの階段を別にし、スペースをもっと広くし、階上や階下にイスを置き、展望したり休憩できるようにしてはどうか。
- ③上り下りの階段を別にし、階段の幅もゆったりとってほしい。
- ④建築場所によっては景観を損なう恐れがあるので場所をしっかりと協議すべき。
- ⑤新展望台によって観光客を誘致するという視点も有るが、新展望台だけでなく観光センターや駐車場（路面にギンガムチェック柄を色づける）の改築によって総合的な視点で観光客誘致をしていく必要がある。
- ⑥冬の雪害について考慮したものを。

ハード② 観光センターについて

策定委員の意見

- ①（観光センターも老朽化）世界のひまわりコーナーの方に建設し、その屋上を展望台にするのはどうか。
- ②観光センターをくぐった先にひまわりの絶景を見せるのもいいのでは。
- ③スポーツ施設としての活用、雨天対応等から現状の大きさの建物を。
- ④建て替えの案が出ているが、通年使用できる施設が1つあっても良い。春～秋にカフェスペースとしての使用やワークショップなどのイベントで使用できる。
- ⑤現在のような箱形の観光センターにしてもらいたい。
- ⑥今の観光センターは補修してスポーツ施設としてそのまま活用。新しい観光センターは長屋風が良い。展望台と一体型のおしゃれなものにしても、今出店しているお店とは合わない。
- ⑦真ん中に建て、前と後ろの両方でひまわりを眺められるように。二階建てにして一階を食事、二階を展望台が理想。
- ⑧現在の観光センターは観光客用としてそのまま使用。催事については、毎年テントハウスをリース・レンタルし

て対応することも可能ではないか。

- ⑨まつり期間中だけの使用では不経済なので、期間外の利用も考えてほしい。また、期間中の歌謡ショー、盆踊り等イベントの実施スペースとひまわりを見ながら食事ができるスペースを確保してほしい。
- ⑩現在のものを改修する。もしくは新築であれば現在のような箱形。
- ⑪雨宿り対策必要。
- ⑫今の観光センターは外から見て何の建物かわからない。一目で分かる施設を。
- ⑬新しい建物等を作るのであれば町内事業者が作れる物を。

パブリックコメント

- ①建て直すのであれば、ただの箱物にするのではなく、ユニークな建物がいい（北海道で見た事のない建物）。また、使い勝手のいいもの、無駄のないものにするべき。
- ②世界のひまわりの場所にて展望台を兼任した観光センターの建て替え。（展望台へのエレベーターも設置）
- ③夏は黄色、秋は黄金色、冬は白色、春は桜色など色の変化によって年間のイベントが創出できるような場であってほしい。また、商売ができ、繁盛するような施設にしてほしい。
- ④世界のひまわりコーナーに新築し、屋上を展望台、カフェコーナーにしてはどうか。
また、現在の展望台がある道路から観光センターの屋上へ歩いて行けるなだらかなスロープを設置してはどうか。（車椅子も対応できる）
- ⑤ひまわりの里を夏はマラソンコース（北商ロードレース）、冬はクロスカントリーコースをして活用。（その発着点を考慮した観光センターの新築）
- ⑥授乳室やオムツ交換スペースをしっかり整備し、子ども連れの家族にも優しい観光地ということをアピール。
- ⑦現在の建物と同じような物を。

ハード③ ノノの森の整備について

策定委員の意見

- ①ノノの森は花を植えて整備し、ベンチやテーブルを設置するだけで良い休憩スペースになる。
- ②日陰を作ることが重要。針葉樹だけではなく広葉樹も必要。今の歩道は歩みにくいので管理をしっかりすることも必要。
- ③見通しを良くするとともにベビーカーや車椅子が通れるように整備必要。
- ④園内に日陰スペースがないのでテントハウスを森の中や外に設置してはどうか。
- ⑤クワガタやキリギリスなど昆虫が採れるなど自然豊かな場所に。
- ⑥防虫対策必要。

パブリックコメント

- ①ノノの森の中にジンギスカンコーナーや焼き鳥コーナーがあると良い。
- ②もう少し見栄えよくしてほしい

ハード④ 観光案内所・協力金受付・ひまわり自転車レンタル等について

策定委員の意見

- ①観光案内所は車から降りてすぐ分かる場所に設置すべき。
- ②協力金受付はひまわりの里入口で行った方が効率が良い。
- ③協力金は、あくまで「こころざし」。集めすぎはよくない。観光客からやりすぎとの声もあり。今後も目立つ場所でやるのであれば客寄せ行為をしない方が良い。
- ④協力金受付は大変であり、いつまで続けられるか。
- ⑤旅行会社にお願ひし、事前に添乗員からツアー参加者に対して協力金について話をしてもらえば効果が上がると思う。また帰り道に協力金お願ひの看板の設置も必要。
- ⑥自転車レンタルは観光センターのすぐ近くに設置し、お金を入れたら使用できるものにしてはどうか。そのほかの施設は観光センター内に入れて情報交換ができるようになればいい。
- ⑦自転車レンタルについては、自転車に乗れない方々用の乗り物があれば喜ばれる。特別な観覧車。

パブリックコメント

なし

ハード⑤ ひまわりの里魅力アップ計画について

策定委員の意見

- ①ひまわりの上を空中散歩 ターザンロープ、ジップライン
- ②ひまわりの間を抜ける滑り台(そり)
- ③ひまわりを下から見上げる仕組み
- ④ひまわりの里のライトアップ 下から照らす 幻想的に浮かびあがる
- ⑤日よけ+雨よけ+休息 景観と建物のマッチング
- ⑥現展望台農業排水路の埋設 → 一体的なひまわり畑の造成
- ⑦ひまわりを身近に見えるように (ひまわり畑 A・B は遊覧車号専用道で分断されている)
- ⑧ひまわり畑外周道 → ひまわり畑 G と I の間に通路を造成
- ⑨ひまわりは高すぎると倒れるリスク。低いと迫力不足。適切な種類の選定が必要。
- ⑩温泉の方までひまわり畑を拡げてはどうか。
- ⑪持ち帰り用のひまわり畑を作り、刈り取ってもらうのはどうか。
- ⑫ひまわり畑の写真コンテスト(インスタグラム活用)。
- ⑬花火大会の協力金集め。
- ⑭写真家の大会を開催。

パブリックコメント

- ①ひまわり畑内(道路付近)に雨宿りや、日よけの場所が無いので、そのような施設が欲しい。
- ②ひまわり畑の上段部に外周の遊歩道が欲しい。
- ③ひまわり畑の西部の山林に桜を植樹すれば、花見をする観光客が来るのでは。
- ④ひまわりの上から下へ移動するジップラインは良いと思う。

- ⑤観光牧場とアイスクリーム屋をつくってはどうか。
- ⑥網走のシマリス公園のようなものを作り、餌としてひまわりの種を売るのはどうか。

ハード⑥ その他

策定委員の意見

- ①いいひまわりを咲かせるためにひまわり畑の改良 → 客土、暗渠、堆肥、緑肥
- ②渋滞緩和策 駐車場の増設や迂回路の造成
- ③現在、ひまわりの栽培管理は NPO をお願いしているが、建設業者なので一般管理に疎く病害虫対策が不十分。したがって5月～9月の5ヶ月間、良く分かっている経験者に委託し管理指導をしてもらう必要があるのではないか。
- ④駐車場を一般と車椅子利用を完全に分け、車椅子の方が降りてすぐひまわり畑に行けるようにしてはどうか。
- ⑤過去のひまわりまつりの写真集を作成・公開する。
- ⑥計画通り開花できるように、ひまわり畑にかん水装置を設置。

パブリックコメント

- ①（渋滞緩和のため）墓地線を拡げる、西川方面へ抜ける道路の新設。
- ②国道に面したひまわりの里入り口に素敵な誘導看板の設置。
- ③出口は西川方面へ抜ける町道の新設。夏のマラソンや冬のクロカンの参加者の心を掴む道路（勾配が箱根駅伝と同じなど）を作り、その道路をひまわりまつりシーズンの出口とする。
- ④サンフラワーパークへ抜ける町道の新設。（マラソン・クロカンをして温泉に行くルートを作る）
- ⑤河道掘削、砂防ダムの土砂等をひまわり畑に入れるのはどうか。
- ⑥子どもたちが遊べるスペースやドッグランがあるといい。